

モイモイのモイ

(一歩一歩のたった一歩)



フロロアーからのスタート

雨季の明けた11月、シエムリアプは恒例の水祭りでにぎわった。そんなある日、幼稚園の先生をしていたポテトの友達が帰国することになった。ポテトを凌ぐ美女との噂もあり、用も無いのにエアポートへ行った。イガグリ頭のあんなちゃんが2人、爆笑問題みたいなになれなれしく彼女のそばにいた。兄貴分に見えたのがスムロ

ンで弟がポテトの後任と紹介された。その後、弟は凄まじい武勇伝を人々の記憶に残したがデイトールは控える、何しろヤバイ。ほつとしていたら小太りでポマードべったりのおっさんが、いきなり僕にハグしてきた。奥さんの上司で、その後、僕らが立ち上げたカンボジアクライミング連盟の代表となるオオモノ氏だ。彼は抱きついたらままだんどん僕の腰をアブナイ感じで締め付けてくる。そういう趣味は無いんですけど、などと舌打ちするとサバオリに入っ

た。こうなればうっちゃるしかないじゃん。とはいえ、為す術も無く僕はじわじわと退がって土俵際(そんなもんじゃないか)で押し出され。部下(奥さん)の日那だからって、こういう歪んだ敬意を表されても困るんですけど。しかしオオモノ氏はエネルギーに騒ぎ続け、その場を完全にジャックしてしまった。そしてくだんの美女と並んで写真に入りたいと駄々をこね、あっさり実現した。う、ずるい、とは思ったがオオノの僕は笑ってすます。ひきつってたらしいけど。

目指せ、アンコールクライマー誕生!!

翌週、あんなちゃんの弟の方からブノンクロムでクライミングしたいと電話があった。ブノンクロム。

そう聞いただけで冷たい汗がにじんだ。じつは、禁断症状の強い頃、僕は何度か偵察に行っていた、しっかりチヨークとシューズを持って。アリーナのような岩場前の広場で僕は緊張した。何しろ、あつちでガラガラ、こつちでゴロゴロなのだ。急に惨めになった。オレはなんでこんな岩で遊ばないやあいけないのか。しかし近いうんだよね。シエムリアプの市街から自転車です30分。捨てがたいといえば捨てがたい。振り返ればブノンレサップ湖が比類のない美しさで迫ってくるんだ。



ブノンクロムはトンレサップ湖の北辺に立つ小さな山だ。頂上にはアンコール遺跡があって登るには遺跡券を買わなければならない。しかし石切り場跡の岩場は中腹なので遺跡券無しでもOK。岩は固い泥岩だが、部分的にダイナマイトの後遺症で無数のひびが表面を縦横に走っている。しっかりしていると思っていると、ヒステリックなじゃりちゃんの積み木みたいに、いきなり崩れたりする。岩登りはアブナイのだと感じるには絶好の岩場だけれど、ホントに危ないから勧めないようにしています。下部にいるのはスムロンと弟分。



奥さんの上司でシエムリアプ州教育青年スポーツ局長(左)。これは今年の1月に開催されたコンペ、アンコールカップ2012のときの写真だ。公の場のせいみかさずにサバオリなし!とはいえ、やや退き気味の僕。

その日、スムロンも来た。比較的固い部分を見付けて冗談みたいなボルダリングを教えたが、なぜか彼は目の色を変えて面白かった。見上げた好奇心。掴んだワールドがいきなり粉々になっても彼は気にしなかった。そういうものだど理解してみた。まずいよ、それは。僕はそうじゃないんだってことを証明する必要に駆られ、彼をすぐにクレーン山のチエ岩へ連れて行った。かくして彼はお決まりのコース、つまりフロロアーとしての技術から少しづつそれを身に付けていったのだ。(続く)